

＜第一部＞

「資源循環を経済学の視点から考えると、
どんな課題と対策が見えるのか？」

近畿大学

経済学部 准教授 石村 雄一

資源循環を経済学の視点から考えると、 どんな課題と対策が見えるのか？



2026年9月8日

近畿大学 経済学部

石村 雄一

お問い合わせ先：
ishimura@eco.kindai.ac.jp

講演内容

1. 経済学の視点
2. 循環経済の課題
3. 経済研究の紹介
4. 資源循環に対するそれぞれの役割

1. 経済学の視点

経済学の視点

人々の商品やサービスに対する**好き**を把握して
社会全体の満足度を最大にしたい

- ・「好き」の程度は人それぞれ
- ・評価や比較が難しい



「好き」を同じ尺度で把握するために、
支払意思額に変換

(例：Aさんは130円分好き、Bさんは120円分好き)

経済学分野の廃棄物研究

視点：廃棄物に対する住民の減量化行動やリサイクル行動に応用

手法：統計分析を用いて、取組みと行動変容の因果関係や効果の大きさを明示

2. 資源循環の課題

何が問題か？

1. 一般廃棄物は減少傾向

- ・ 減量化への取組み
- ・ 人口減少
- ・ 消費量の減少

多くの自治体が
計画目標に掲げる

今後も減少傾向が予測されるなか、
これからも減量化を第一優先のままでいい？

2. リサイクル資源の供給量が不安定に

- ・ 資源循環 → 廃棄物分野の課題

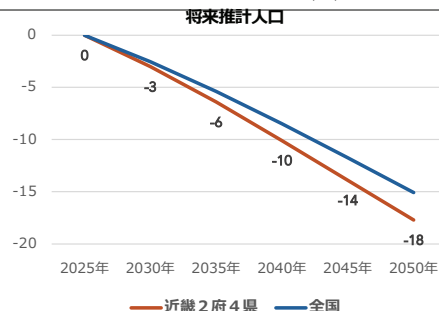
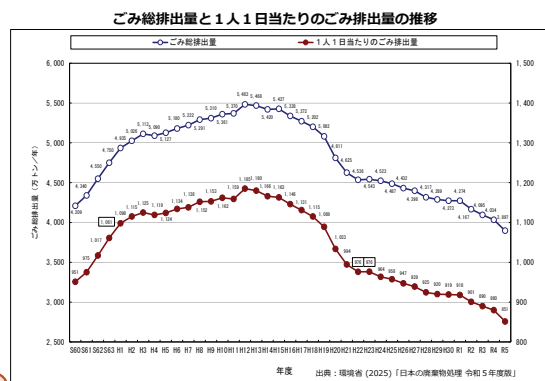
現在 → 資源分野の課題
→ 経済安保の課題

他国に資源を依存する
ことのリスクが表面化

分別促進が
より一層重要

- ・ しかし、資源ごみの総排出量は今後も減少

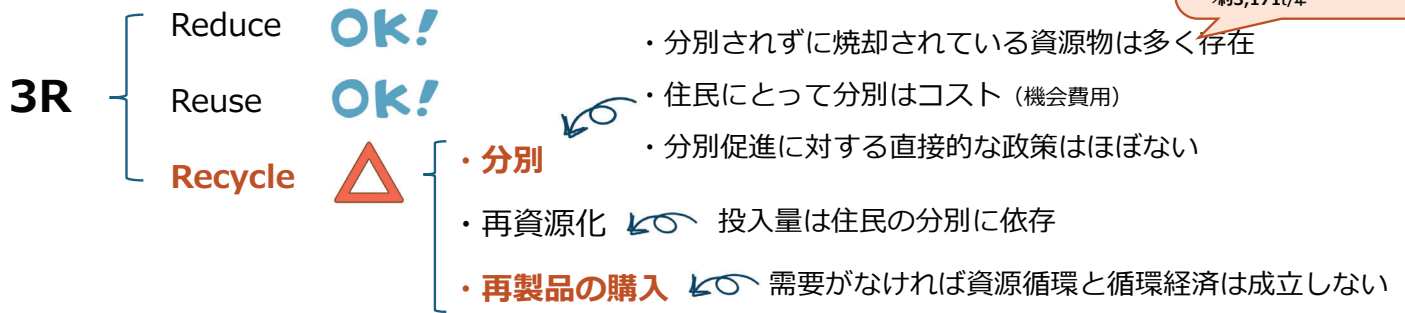
減量化から資源循環へのシフトが必要



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」より筆者作成

資源循環を促進するには？

(例) 豊中市 (R4) :
・可燃ごみの7.27%がプラ容器
→潜在的な分別量 約4,070t/年
・プラ容器 資源化量 実績量
→約3,171t/年

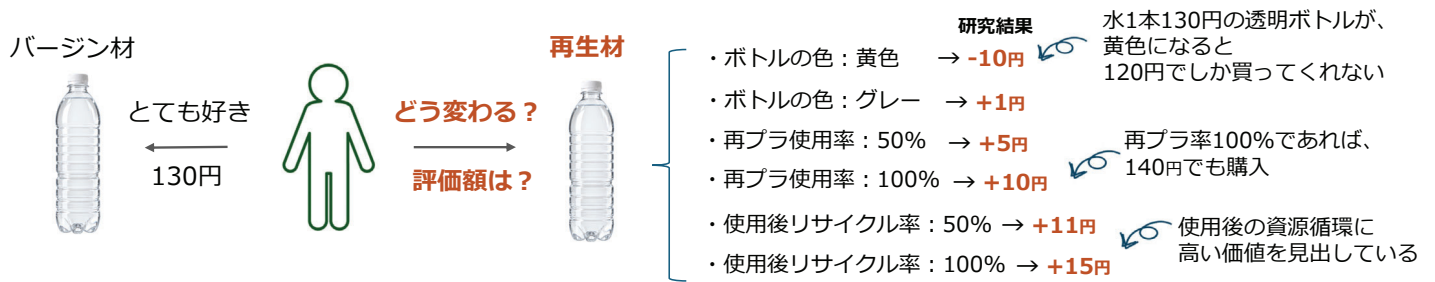


目指すべきリサイクル



3. 経済研究の紹介

研究：再生ペットボトルに対する消費者受容性



研究手法：

離散型選択実験 (コンジョイント分析)

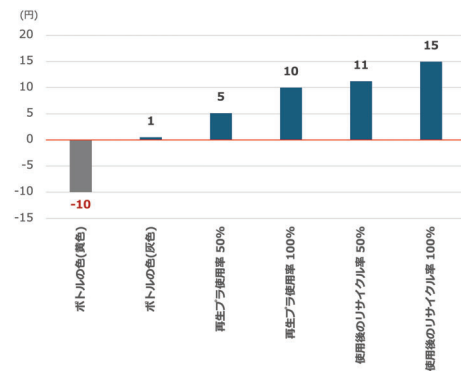
- ・マーケティング分野で広く使われる分析方法
- ・消費者の選択結果から、商品のどの特徴がどの程度重視されているのかを分析

リサイクル
分野に応用

Mixed logit model

- ・統計解析の手法の1つ
- ・消費者ごとに商品の特徴に対する好みが変わることが考慮可能

研究結果：支払意思額



4. 資源循環に対するそれぞれの役割

経済学からみた資源循環の課題と対策

- 住民**
- ・ 分別 ≠ リサイクル
- ▼
- 分別 + 再製品の購入 = リサイクル**
- 行政**
- ・ 減量化から再資源化への政策転換
 - ・ 分別促進がより一層重要
 - ・ 再製品購入の促進も必要
- ▼
- 回収後の工程も住民に示すことが有効**
- 事業者**
- ・ 品質（とくに色）の維持
 - ・ 再製品に対する消費者評価を把握
 - ・ 再製品 ≠ コスト
- ▼
- 「再製品 = 価値」に転換**

